

志士不忘在溝壑、勇士不忘喪其元。趙岐注、君子固窮、故常念死無棺槨沒溝壑而不恨也。

口語訳

志士は道を守り通すためには、殺されて溝や谷に捨てられることも覚悟しており、勇者は義のためにはその首を失うことも覚悟しているものだ。趙岐の注によれば、君子は困難な境遇におちいつても、かたくなにその境遇をまもって安易な態度をとらないものだ。なぜならば（兵や役人たちは）いつも棺に入ることなく死ぬことを覚悟しているし、溝や谷で野垂れ死にするとしても恨まないからだ。（『中国古典文学大系（孟子）』）。また178句目「溝壑」および54句目「述遭」は、『文選』に左思（左大沖）の「詠史詩八首」としてつぎのように使われている。

(七)

主父宦不達

骨肉還相薄

買臣困采樵

伉儷不安宅

陳平無產業

婦來翳負郭

長卿還成都

壁立何寥廓

四賢豈不偉